

べつ み よ う い っ ぼ ん ま つ こ ふ ん
別 名 一 本 松 古 墳
べ つ み よ う て ら だ に い ち い せ き
別 名 寺 谷 I 遺 跡

～今治新都市開発に伴う遺跡発掘調査～

事業名 今治埋蔵文化財調査
委託者 独立行政法人 都市再生機構
受託者 財団法人 愛媛県埋蔵文化財調査センター
場所 今治市別名
調査面積 2,900m²



当センターでは平成13年度より今治新都市開発に伴って遺跡の調査を行ってきました。今回の現地説明会では今年度実施した二つの遺跡の調査成果を報告します。

別名一本松古墳では青銅鏡を副葬した古墳時代前半期の首長クラスの墓を、別名寺谷I遺跡では弥生時代から平安時代にかけての集落跡や鍛冶関連遺構を確認しました。

別名一本松古墳と今治平野

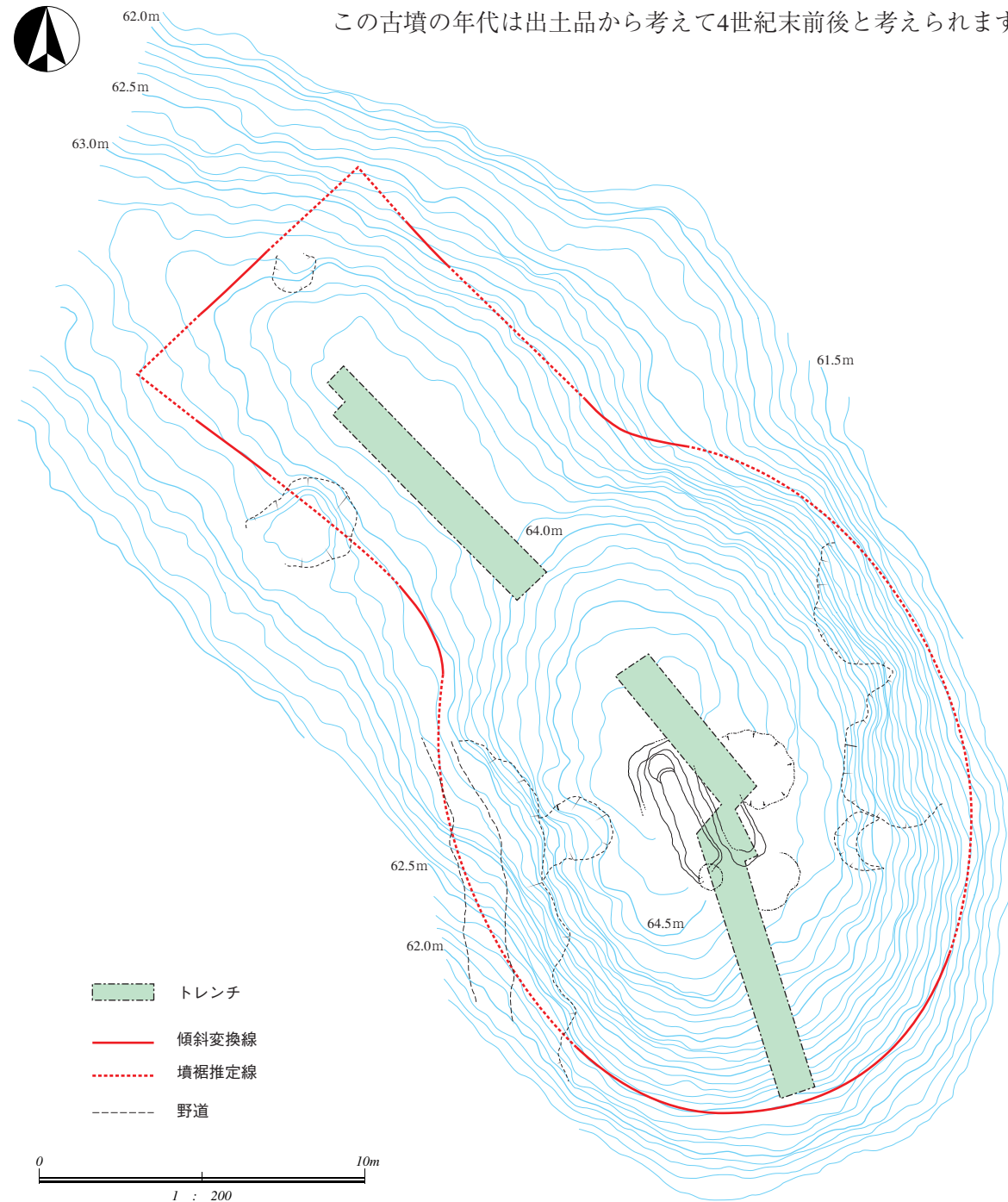


別名一本松古墳

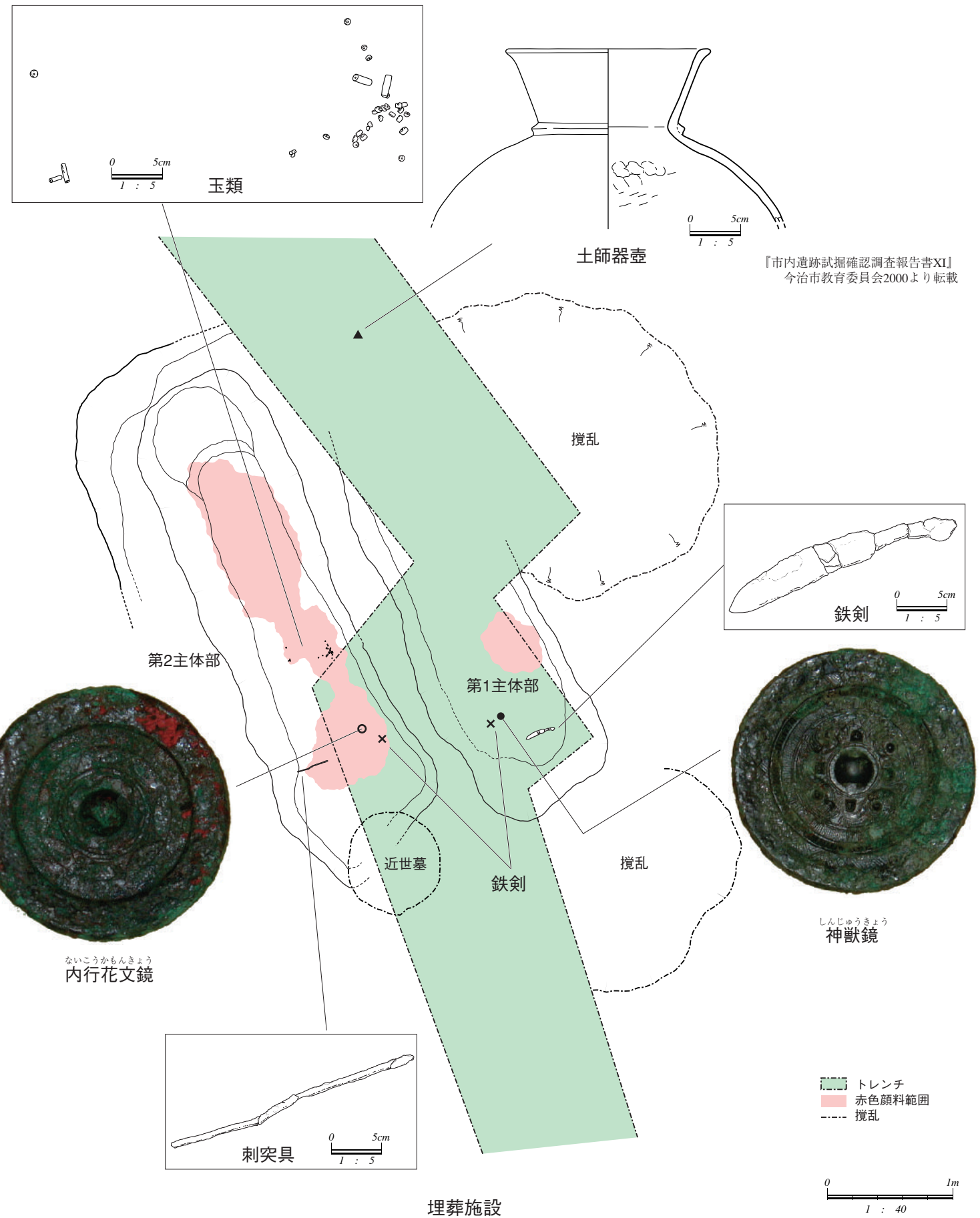
別名一本松古墳は、後世の削平が著しく原形をとどめていない部分も多いものの、
 円丘部に盛土が残っていることや地山を成形した傾斜変換点を確認できること
 などから、全長約30mの前方後円墳である可能性が高いと考えられます。

死者を埋葬する施設は、円丘部中央やや南寄りに2基確認されました。それぞれの内部からは青銅鏡をはじめ、鉄器類や玉製品などが出土しています。また、床面には赤色顔料が塗られていました。

この古墳の年代は出土品から考えて4世紀末前後と考えられます。



墳丘



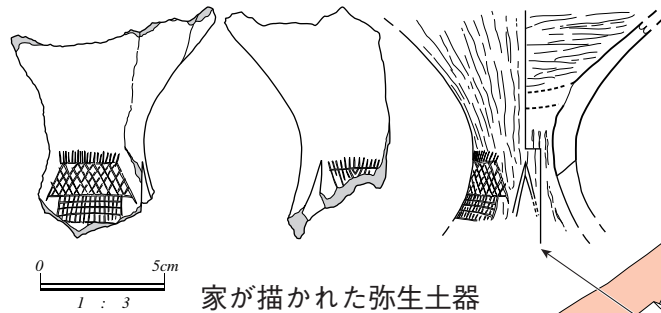
埋葬施設

別名寺谷 I 遺跡

べつみやうでらだにいちいせき

別名寺谷I遺跡は、平成16年度に引き続いての調査です。過年度の調査では弥生時代から平安時代にかけての集落跡や鍛冶遺構を確認しています。今回の調査でも発見された鍛冶炉は隣接する別名端谷I遺跡や、製鉄炉が四国で初めて発見されて大きな話題となった高橋佐夜ノ谷II遺跡などに関連するものとして注目されます。平安時代の遺物では黒色土器・施釉陶器・青磁・硯・瓦など豊富な種類の遺物が出土しています。

また、弥生土器の高杯に描かれた2棟建物は、たいへん珍しいもので当時の建物の具体的な姿を知ることができる貴重な資料です。



Memo

